

生物多様性とちぎ戦略の概要

～つなごう いのちの共生を いま「とちぎ」から～

策定に当たって

県民をはじめとする様々な主体と協働して、地域からの取組の更なる推進を図るため生物多様性基本法第13条に基づき戦略を策定

生物多様性を取り巻く情勢

生物多様性とは、すべての生物の間に違いがあることで、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性という3つのレベルの多様性があります

生物多様性からの恵みは、私たちの快適で安全な暮らしを支えています



水の循環
(尚仁沢自然環境保全地域)



木材の供給
(矢板市)



花粉の媒介



500系新幹線
(カワセミのくちばしを参考)

本県の生物多様性の特徴

山岳、河川、湖沼、湿地など変化に富んだ地形
北西部の山岳地帯が太平洋側気候と日本海側気候の境界
本県中央部に年平均気温13の等温線(南方系と北方系の植物の境界)

地形的、気候的に多様であることから、様々な動植物が生息・生育

開発や乱獲、里地里山の荒廃、外来種による生態系の攪乱、地球温暖化など、本県の豊かな生物多様性に及ぼす影響が顕在化

基本理念と目標

豊かな生物多様性を守り育て、その恵みを次の世代に引き継ぐ
「人と自然が共生するとちぎ」の実現

多様な生物とそれらのつながりを育む社会

将来にわたって生物多様性からの恵みを分かち合う社会

多様な主体の協働により自然との共生を守り育てる社会

6つの行動計画

本県の現状と課題に対応した取組を体系的に整理
地域の生態系の保全・絶滅のおそれのある種の保全
野生鳥獣の保護管理 外来種の防除
生物多様性を支える人づくりの推進

里地里山の活用と保全
地球温暖化への対応

5つの重点プロジェクト

重要かつ緊急性のあるものを今後5年間で取り組む重点プロジェクトとして設定

1 里地里山保全再生プロジェクト

(主な取組)
地域主体の森づくりによる里山の保全再生
人と野生獣との緩衝帯としての森林整備
共同活動による農地などの管理の促進
雑木林の経済林としての再生活用
里地里山の体験交流型観光資源としての活用



地域住民等による保全活動
(宇都宮市)



10年後のイメージ

2 河川・湿地保全再生プロジェクト

(主な取組)
奥日光などにおける外来種の重点的な駆除
野生獣から湿原を守る取組
魚類の生息環境の保全・再生



外来種の抜き取り作業
(さくら市)



10年後のイメージ

3 野生動植物保全プロジェクト

(主な取組)
自然環境保全地域の新たな指定
日光杉並木街道の保全
ミヤコタナゴなどの系統保存



ミヤコタナゴ(大田原市)



自然とのふれあい
(日光自然博物館)

4 生物多様性を支える人づくりプロジェクト

(主な取組)
子どもたちが身近な自然とふれあう機会の創出 「国際生物多様性の日」記念事業の実施
生物多様性県民行動リストの作成 「生物多様性アドバイザー」(仮称)の養成・認定

5 企業・大学との連携プロジェクト

(主な取組)
企業などからの寄附を多様な主体が参加する保全活動に活用
宇都宮大学里山科学センターと連携した野生鳥獣管理指導者の養成・活用

戦略の効果的な推進

各主体に期待される役割(行動指針)、多様な主体との連携・協働、教育機関、国・研究機関などとの連携
戦略の進行管理(とちぎ環境立県推進本部、栃木県環境審議会等の活用)